



説教	宣教する教会	……	金	山徳	……	1
大信仰問答	CATS・愛⑩					
	エッセイ「第10章 聖礼典」	……	吉平	敏行	……	2
新約聖書に聴く	「主の祈り」(10)	……	後藤	憲正	……	3
■	教会、この地とともに⑤4					
	小倉教会					
	先立たれて進む主	……	佐藤	一彦	……	4
目次	SDGsについて考える⑥ (目標11)					
	主御自身が建ててくださるのでなければ					
	……		山本	清	……	5
■	次世代へのメッセージ⑩					
	地方教会の成長を祈りつつ	……	福井	重藏	……	6
	み言葉に照らされて 何度も起こる奇跡	……	松田	君子	……	7
	さんびかに生かされて	……	田上	中	……	7
	松本栄好先生 追悼	……	澤	正幸	……	8
	教会ニュース	……			……	8

宣教する教会

(使徒言行録13章1-3節)

キム サン ドク
金 山 徳

使徒言行録は13章からペテロの姿がいなくなり、パウロという新しい人物が登場し、彼を中心とし、宣教旅行が始まる。福音は「エルサレムとユダの地」を超えて、聖霊によって公式的に外国に出かけていく。教会が内から外に向かって、宣教の働きを公に始めたのはエルサレム教会ではなく、アンティオキア教会であった。この教会は宣教する教会であった。エルサレム教会が外への宣教に躊躇していた時に、主は迫害という道を通して彼らを散らされた。散らされたものから、また宣教する教会が生まれ出る。著者は13章から読者らを聖霊に導かれる教会の宣教的働きに居合わせる。福音は、福音を信じる者がその福音を自分の外に向って宣べ伝えようとするところにある。

この意味で13章からの宣教の働きは全的に神の出来事であると同時に、人間の働きでもある。「アンティオキアでは、その教会にバルナバ、ニゲルと呼ばれるシメオン、キレネ人のルキオ、領主ヘロデと一緒に育ったマナエン、サウロなど、預言する者や教師たちがいた」(1節)。著者が5人の名前を記したのは、何らかの意図があると言える。著者はこれでアンティオキア教会の多様性に傍点を打っていると言えよう。人、出身地、身分、信仰や神学的性向、学力など様々な預言者や教師がいたことにより、めごともありえたかも知れない。しかしその多様性はイエス・キリストにあって一つに結び合わされる。アンティオキア教会はその根から純血主義などのようなものとは程遠い。

多様な人々が「礼拝し断食する」。礼拝は民族の多様性を超越する神の出来事である。そこに「聖霊が告げる」とは、宣教が神によって始められたという証言である。福音宣教は聖霊の働きで、徹底的に神によって始められ、遂行され、完成される。それでも、神の一方的な恩寵の働きは人間の能動的決断と参与を排除しない。神の不可抗力の恵みの働きが少しも害されることなく神秘的なやり方で、主は人間の積極的で決断力のある行動を用いる。神の恩寵は人間に何もやらせないものではなく、「信じる者には何でもできる」力である(マルコ9:23)。

宣教は帝国主義的発想で人間の成就欲に過ぎない、または教会の自己膨張であると平価切り下げする批判は的外れである。宣教とは神の御言葉を宣べ伝える聖霊の働きであり、それに導かれるキリスト者の熱情の働きである。

アンティオキア教会に求められたのは「聖霊のために選び出す」(アポリゾー)ことであった。これは聖別する、取っておくなどの意味の動詞である。宣教は聖霊の宣教的な働きのために取っておくことから始まる。教会は自分のものを自分のために自分のうちに閉じ込めない。自分らの神学や信仰を優先にし、他のものを受け付けず、または外に差し出すこともしないのは、差別的発想である。

それでアンティオキア教会は「断食と祈りをささげて彼らを送り出す(アポリユオー)」(3節)。これは解き放つことで、2節のアポリゾーと一脈相通ずる。自分のことばかりに固執しないで、他のために自分のものを解き放つことである。

確かに、アンティオキア教会にとって、こんなことは前例のないことであろう。だから躊躇したかも知れない、委員会でも設けて、何か調べようとしたかも知れない。しかし、そのような報告は一切ない。ただ「断食して祈り、送り出した」。

教會的な事柄を決めるとき、「断食し祈る」ことは聖霊によって導かれる共同体の真の姿である。アンティオキア教会は、変化を恐れず、自分たちのことにしがみついているばかりの教会ではなかった。新しいことをやりだすことに慎重になりすぎて、結局は何もしないで自己に溺れているまさに一タラントンをもらったような教会でもなかった。

2022年は日本に最初のプロテスタント教会が横浜に設立して以来150年になる。「日本公会」が建てられた時(1872)、公会条例二条に、公会は民族的な一致ではなく、全世界を視野に入れるイエス・キリストにおける一致する教会を目指すとする。大胆に断食と祈りをもって、送り出し、迎え入れることのできる教会として進んでいくのではないかと。

(九州中会宣教教師)